

漢検

平成24年度(2012年度)

検定日 平成24年6月17日

〔不許複製〕

財団法人 日本漢字能力検定協会

第1回 日本漢字能力検定 試験問題

氏名

準1級

解答は、現代仮名遣いによるものとする。

解答は別紙(答案用紙)に書くこと。

(一) 次の傍線部分の読みをひらがなで記せ。(30) 1×30
1 検査の結果脊椎に炎症が見つかった。
2 或問形式の入門書を読む。
3 湛然たる水の底に光るものがある。
4 一日盤桓して湖上の風景を望む。
5 広大な田野を耕し、刈穫するに及ぶ。
6 船内の烹炊所を任せられる。
7 祖父は庚寅の年の生まれである。
8 背後から門衛に誰何された。
9 クラゲは腔腸動物である。
10 尊師の芝眉を拝する。
11 腕のいい輪輿の職人を探す。
12 孜孜として倦まず働いた。
13 帥先して難事に当たる。
14 数多くの經典を請来した。
15 ただ搔頭する外なかった。
16 なかなかの尤物と見た。
17 隣の部屋から哀咽の声が聞こえる。
18 晩年は薙髪して山に入った。
19 文雅を以て其の政を綯飾す。
20 柵葉の状は芭蕉の如し。

(二) 次の傍線部分は常用漢字である。その表外の読みをひらがなで記せ。

(10) 1×10

- 1 各自の負担を均す。
- 2 力量の程を験された。
- 3 事ここに至って道は谷まった。
- 4 誰一人戦かない者はなかった。
- 5 肯えて危地に赴く。
- 6 万、引き受けます。
- 7 いつになく淑やかに振る舞っている。
- 8 小袖の領をつくろう。
- 9 逆境を克く乗り越えた。
- 10 諸国の賦を載せた船が入港した。

(三) 次の熟語の読み(音読み)と、その語義にふさわしい訓読みを(送り)がなに注意して)ひらがなで記せ。(10) 1×10

〈例〉健勝……勝れる ↓ けんしょう

すぐ

- | | |
|--------|-------|
| ア 1 捷報 | 2 捷つ |
| イ 3 凋零 | 4 凋む |
| ウ 5 背戾 | 6 戻る |
| エ 7 醇風 | 8 醇い |
| オ 9 頃刻 | 10 頃く |

(四) 次の各組の二文の()には共通する漢字が入る。その読みを後の()から選び、常用漢字(一字)で記せ。(10) 2×5

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 () 履の如く棄てる。 | 政界に入り時(1)の打破に努める。 |
| 2 代々(2)漕業を営んでいる。 | 処分の撤(2)を迫る。 |
| 3 (3)黛麗しき芸妓が現れた。 | (3)飾の甚だしい報告だ。 |
| 4 世人の好(4)に合わない。 | 若者に(4)齒の精神が生まれた。 |
| 5 苦(5)は察するに余りある。 | (5)心から感謝いたします。 |
- かい・ぎ・しょう・たい
ちゅう・ふん・へい・もん

(五) 次の傍線部分のカタカナを漢字で記せ。(40) 2×20

- 1 ツタウルシの紅葉が美しい。
- 2 ジリツとは三十歳の異称である。
- 3 ケイセキはガラスの主原料になる。
- 4 金星がアケボノの空に輝く。
- 5 コソクな手段を弄する。
- 6 住民の要求がイツシュウされた。
- 7 上昇した気球がケシ粒ほどに見える。
- 8 兄弟の仲がムツまじい。
- 9 衣服にシヨウノウの匂いが残る。
- 10 ギキョウ心を描いた日本映画を好む。
- 11 雨で草木がソセイする。
- 12 葉緑素の欠乏によって葉にフが入る。
- 13 昆布のツクダニを着にする。
- 14 在庫品がすっかりサバけた。
- 15 相手チームの守備をカ克蘭する。
- 16 ワニ皮の財布を愛用している。
- 17 宗徒のホウガ金で本堂を再建した。
- 18 人権意識のホウガと呼ぶべき段階だ。
- 19 野ビルを摘んで料理に使う。
- 20 山ビルに血を吸われる。

準1級

解答欄を間違えないよう設問番号を確認してください。

(六) 次の各文にまちがって使われている同じ音訓の漢字が一字ある。上に誤字を、下に正しい漢字を記せ。

(10) 2×5

1 追善合戦とは戦死者の霊を慰め命福を祈る為に仇を討つ戦闘である。

2 文学に造詣の深い徳志家の庇蔭を蒙り居所と衣糧の不安から解放された。

3 療養中の欲求不満に苛だつ心を慰撫するため句を捻つては投稿した。

4 辺土に配流された詩人の鬱屈した心境を余す所なく吐露した舌唱である。

5 胸突き八丁を凌ぎ切ると讃然たる旭光が峻嶺の背後から射し始めた。

(七) 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。(30)

問1

次の四字熟語の(1)～(10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20) 2×10

- | | |
|--------|--------|
| (1) 重来 | 長身(6) |
| (2) 佳人 | 街談(7) |
| (3) 坑儒 | 鼓腹(8) |
| (4) 三遷 | 一張(9) |
| (5) 盜鐘 | 羊頭(10) |

いっし・えんじ・くにく
げきじょう・けんど・こうせつ
さいし・そうく・ふんしよ
もうほ

問2

次の1～5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10) 2×5

- 敵につけ入る機会を与えない。
- 勢いよく生長するさま。
- あわてふためくこと。
- 建築・造営を盛んに行う。
- どっちつかずの態度。

朝穿暮塞・禾黍油油・雷轟電転
打打発止・三者鼎立・首鼠兩端
折衝禦侮・周章狼狽

(八) 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。
□の中の語は一度だけ使うこと。(20) 2×10

対義語

類義語

- | | |
|------|-------|
| 1 凶兆 | 6 大略 |
| 2 強靱 | 7 不世出 |
| 3 近接 | 8 胡乱 |
| 4 優柔 | 9 急逝 |
| 5 付与 | 10 虚実 |

かだん・けう・けんかく
こうがい・しんがん・ずいしょう
ぜいじやく・とんし・はくだつ
めんよう

(九) 次の故事・成語・諺のカタカナの部分に漢字で記せ。(20) 2×10

- 虎に翼、獅子にヒレ。
- ガイコツを乞う。
- 百尺カントウに一步を進む。
- セツタの裏に灸。
- テップの急。
- 昔とったキネヅカ。
- 身から出たサビ。
- セイアは以て海を語る可からず。
- 未だ覚めずチトウ春草の夢、階前の梧葉已に秋声。
- 朝菌はカイサクを知らず。

(十) 文章中の傍線(1～5)のカタカナを漢字に直し、波線(ア～コ)の漢字の読みをひらがなで記せ。(20) 2×5 1×10

【A】客が来た。玄関に近い自分の部屋から大野は据わっていながらどなった。「今帰って来た所だ。上がり給え。」女中の竹がサラサ形の座布団と茶を運んで置いて、「ダンナ様が奥様にと仰います」と云いに来た。

それから背後の家に住まっている地主の娘が遊びに来た。大野は「おう、八重ちゃんか。好く来た。東京からね、おばさんを連れて来たよ」と云って、八重ちゃんの手を取って富子の傍へ連れて来た。八重ちゃんは行儀好く丁寧にお辞儀をした。美しい髪を長いお河童にして、うす赤くふくらんだ顔に、思う儘に手で抱えた様に、形よく目鼻が出来ている。「おつ母さんはお邪魔だろうと申しますが、大野さんの処へ毎日参りますの。お友達にして下さつてよ。」こんな事を云いながら、富子の体を手探りでさすった。「貴方のお羽織もお召しも縮緬」と云う。富子は「好く分かりますのね。わたくしもあなたのお友達にしてチヨウダイな」と云った。

(森しげ「波瀾」より)

【B】天の人に対する何ぞコウハクあらん。富めるもの驕る可からず、貧しきもの何ぞ自ら愧ずるを須いん。額上の汗は天与の黄金、一粒の米はこれ一粒の玉、何ぞ金殿玉楼の人を羨まん。

夕陽西に傾いて戸々の炊烟漸く上るの時、一群の村童、奇異の旅客を纏うて来る。只見る粗造の木車一輛、之を挽くものは五十に余れる老爺、之に乗るものは、十歳ばかりも他に増さるべし、乗るものは小鼓を打って題目を誦し、挽くものは家に就いてキシヤを仰ぐ。髪は霜に打たれし蓬の如く、衣は垢に塗れて臭気高し。われは爾時、晩食を喫して戸外に出で、涼を納れて散策す。此の体を見て惆悵として去る能わず、熟視すれば乗者の衣は三つ紋の、あわれ昔時を忍ぶ会津武士、脚は破衣を脱して露るところ銃創を印し、眼は空しく開けども明を見ず。

(北村透谷「客居偶録」より)

氏名